



「一日の永遠」

この星にとつては、  
海さえも

ただの湖なのではあるまいか。  
ただの湖なのではあるまいか。  
出口を失った巨大な湖に、  
仮住まいをした人間たちは、  
ビニール袋を  
置き去りにしていく。

命に限りがあるように、  
この星も決して永遠ではない。

午前五時に  
今日一日の太陽が生まれた。

錦江湾が、  
頬月色の敷布に代わる。  
ひと気のない船が  
故郷という永遠の港に  
向かっている。